

「各務原市ふるさと福祉村」主催

みんなで考えよう！

～在宅医療・介護支援の現場から～

『顔にアザのある、徘徊する高齢者を助けてやってほしい！』

ストーリー

ある日、地域包括支援センターに民生委員から電話が入りました。

「顔にアザのある、徘徊する高齢者を助けてやって欲しい」

職員が自宅を訪問すると、顔に大きなアザを作り、ゴミにあふれた室内にうつろな顔でたたずんでいる男性の高齢者がいました。

76歳のAさん。次男と二人暮らしで2年ほど前から徘徊や物集めが始まっており、認知症の症状が現れていました。

次男は以前、とび職をしており、4年ほど前に工事現場の足場から転落。怪我の後遺症で仕事に復帰できず、以来、無職。同居している認知症の父親の態度に我慢できずに、日常的に暴力を振るっていました。最近はエスカレートしているようです。

包括支援センターが市内に住む長男と連絡を取り、今後の対応を相談しましたが…？この先、どうやってAさんを支えていったのか、続きは会場で…どなたでも、お気軽にご参加ください。お待ちしております。

地域ケア会議

介護支援の現場で何が起きているのか？どんな問題があるのか？今後どんな連携と支援ができるのか？本人と家族のお思いを大切に、より充実した日々が過ごせるのか？希望をかなえることができるのか？担当医師や福祉専門職の皆さんが、在宅での生活や方向性を検討研究していく場です。

「近所に気になる人がいるけど…」「遠方に暮らす、一人暮らしの親が、認知症になったら…」など心配事がある方、この機会に皆さんと一緒に考えてみませんか。

各務原市ふるさと福祉村は、高齢者などが住み慣れた地域で生涯を安心して暮らせるよう、福祉・保健・医療などを中心とするネットワークをつくり、生活支援サービスを提供することにより、地域社会における21世紀型「福祉コミュニティ」の形成を図ることを目的に平成15年度から意見交換交流会等の活動をしています。

今回の市民公開講座では、地域の「福祉コミュニティ」形成に深く携わってきた「各務原市ふるさと福祉村」が中心となり、地域の医療・福祉関係者のボランティアの皆さんが困難事例をもとに検討研究を開催、その結果や課題などを一般市民を交えた「意見交換交流会」として問題提起するものです。

※地域ケア会議とは：地域包括支援センター又は市町村の主催により、包括的支援事業の一環として、幅広い地域の多職種の視点により、それぞれの専門性に基づくアセスメントやケア方針の検討がなされる場

在宅医療・在宅介護支援等について、詳しく知りたい方はお近くの包括支援センターまでご連絡ください。

助成：公益財団法人 在宅医療助成 勇美記念財団